

ナンバリング			授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E113B002			保育の指導 (健康) (Method of Infant Education)							対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
選択必修		2	2 (R5入学生 以前は3年)	教育学部	後期	火1	日本語				オムニバス					
担当教員	氏名 玉江 和義・永田 誠															
	E-mail k-tamae@oita-u.ac.jp (玉江), m-nagata@oita-u.ac.jp (永田) 内線 7624 (玉江), 7559 (永田)															
授業の概要	領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。 本講義では、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即した主体的・自発的な経験が生まれる具体的な場面を想定した保育計画を構想するとともに、振り返りを通じた保育を改善する視点を身に付ける。															
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	領域「健康」のねらいと内容について理解を深める													○		
目標2	幼児期の発育発達と生活習慣の形成について理解する							○								
目標3	健康教育や安全管理・安全指導のあり方や指導内容・方法を理解する												○			
目標4	幼児期の健康づくりと運動遊びの計画の作成と具体的な指導・援助ができる														○	
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)										2			2	3	3	
授業の内容																
1 幼児教育・保育の基本的理解(担当:永田誠)																
2 領域「健康」のねらいと内容(1)幼稚園教育要領等における「健康」の位置づけ(担当:永田誠)																
3 領域「健康」のねらいと内容(2)幼児期運動指針の理解と遊びの工夫例(情報機器及び教材の活用を含む)(担当:永田誠)																
4 領域「健康」のねらいと内容(3)幼児教育・保育における領域「健康」のねらいと内容(担当:永田誠)																
5 子どもの「健康」に関する現状と課題(1)基本的な生活習慣とは(担当:玉江和義)																
6 子どもの「健康」に関する現状と課題(2)幼児の健康・安全な生活と保健指導(担当:玉江和義)																
7 子どもの「健康」に関する現状と課題(3)幼児の健康と基本的な生活習慣(担当:玉江和義)																
8 子どもの「健康」に関する現状と課題(4)幼児の健康と運動遊び(担当:玉江和義)																
9 子どもの「健康」に関する現状と課題(5)幼児の安全指導・安全管理(担当:玉江和義)																
10 領域「健康」の指導法に関する保育計画の立案と実践(1)領域「健康」に関する保育計画の立案(情報機器及び教材の活用を含む)(担当:永田誠)																
11 領域「健康」の指導法に関する保育計画の立案と実践(1)領域「健康」に関する保育計画の立案(情報機器及び教材の活用を含む)(担当:永田誠)																
12 領域「健康」の指導法に関する保育計画の立案と実践(2)領域「健康」に関する教材研究・環境構成(担当:永田誠)																
13 領域「健康」の指導法に関する保育計画の立案と実践(3)領域「健康」に関する保育計画・教材の発表と相互討議(担当:永田誠)																
14 領域「健康」の指導法に関する保育計画の立案と実践(3)領域「健康」に関する保育計画・教材の発表と相互討議(担当:永田誠)																
15 幼児期における領域「健康」の意義(発表の振り返りを含む。)(担当:永田誠)																
ラーニングログ	A:知識の定着・確認		・保育計画の立案と実践においては、他科目等で得た知見も活用することとで理論の統合を図る。					工夫その他の								
	B:意見の表現・交換		○・多様な見方に気づくため、模擬保育や発表と受講生間の相互評価を取り入れ、自己ならびにグループでの振り返りを重視する。													
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造		○													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		保育指導案の作成ならびに模擬保育・発表準備(15h)													
	事後学修		講義内容の振り返りによる知識の定着(10h) 課題レポートの作成(20h)													
	想定時間合計		45													
教科書		講義内で、適宜、資料を配布する。														
参考書		・文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社、2017年(ISBN : 978-4805402580) ・文部科学省『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館、2018年(ISBN : 978-4577814475) ・文部科学省『幼児期運動指針ガイドブック―毎日、楽しく体を動かすために―』サンライフ企画、2013年(ISBN : 978-4904011478)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題レポート		60%	○	○	○	○						
	保育案の発表と実践の省察		20%	○	○	○	○						
	授業・課題への取り組み状況		20%	○	○	○	○						
注意事項	本講義は、一部でグループワーク等の演習形式にて進めるため、受講生の積極的な授業参画を望む。 授業・課題への取り組み状況などは、成績評価に厳密に反映する。												
備考	履修者の関心ならびに授業の進捗状況によって、講義内容・計画を変更することがある。 前半（玉江担当回）、後半（永田担当回）どちらか一方でも3分の1以上欠席した場合は、（たとえやむを得ない理由で欠席したとしても）原則、単位取得できません。												
リンク													
	URL												